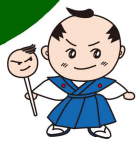
ある町の天気相談所

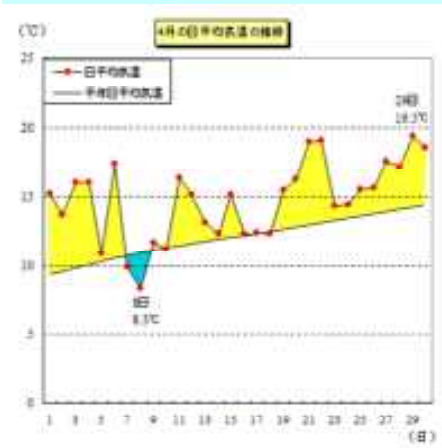
Vol.05
2018.5. 7

平成30年 5月号



4月の気候

4月は、平均気温が14・8度と4月としては観測開始以来最も高い気温となりました。いままでの記録を（1964年の13・9度）を0・9度上回りました。最高気温及び最低気温の月平均も、4月としての最も高い記録となりました。日照時間は181・5時間、降水量は125ミリとほぼ平年並みでした。



1カ月予報（気象庁発表）

5月は周期的に天気が変化しますが、平年に比べて晴れの日が少なく、月を通して平年より気温が高く、降水量は多いですが、日照時間は少ない予想です。

日々の日立市の天気予報は、天気相談所から毎日発表しています。

天気相談所のあゆみ

天気相談所の歴史２

日立鉱山の気象観測

1909年（明治42年）から始まった日立鉱山の気象観測は、煙害対策が目的であったため、当時としては例がないほどの観測網を整えていきました。煙害対策としては大煙突の建設が最も大きな物ですが、大煙突の建設の資料だけでなく、その後の煙害対策として、観測所は重要な役割を果たしていきます。このことは、大煙突建設後にも、観測所が増設されていたことからもうかがえます。

神峰山観測所での仕事は、大煙突から出る煙の流れを監視することと、気象の観測で、毎日3人ずつの交代勤務で1日6回、気圧や気温、湿度、風向風速、雲量、降水量の観測を行っていました。神峰山観測所は、観測の中心的な役割をはたしておりました。煙の流れの監視では、煙が流れていく方向にある観測所と連絡をとり、煙が地面に接する所に職員を派遣して、煙の濃度などを測定します。それらの情報の報告をうけた、神峰山観測所では、専用電話で結ばれていた鉱山の庶務課と連絡をとり、「制限溶鉱」などの煙害防止のための生産調整方法が運用されていました。

神峰山山頂の百葉箱（現在は未使用）

天気用語の基礎知識

五月晴れ

テレビの気象コーナーなどで「今日はすがすがしい天気で、五月晴れとなるでしょう」などと、5月の青空が出る日に使われるのを聞いたことがあるかと思います。もともとは、旧暦の5月の晴れ間であり、旧暦の5月は梅雨の時期ですので、梅雨の晴れ間の意味です。「五月雨（さみだれ）」のように今でも、梅雨の雨としてのみ使われる言葉もありますが、「五月晴れ」のように、新暦、旧暦両方で使われるような言葉もあり文脈で判断しないと意味がわからない場合もあります。

神峰の山から

行政放送番組の収録のため、神峰山に登ってきました。この日は天気がよく、山頂からは大煙突はもとより、遠く鹿島灘を一望できました。一度は煙害で破壊された自然ですが、今ではそんなことがあったことが疑われるほどの豊かな自然があります。煙害発生直後からの、地道な取り組みによってもたらされていることを、実感しながらの山歩きとなりました。梅雨に入る前のこの時期、日立の発展の歴史と自然に耳を傾けながら、ハイキングはいかがでしょうか。

（放送は5月26日からの予定です）

おじさん3人が講師役、スタッフもお兄さん方？3人と男6人の山登りでしたが、安心してください。番組には女子2人しか出てきません。